

第2章

岡山県の保健医療の現状

第1節 人口等の状況

1 人口及び世帯数

(1) 人口の推移

平成28（2016）年10月1日現在の本県の人口は、191万5,401人（男性91万9,522人、女性99万5,879人）となっています。

これを過去の推移からみると、昭和45（1970）年の国勢調査以降ほぼ一貫して増加を続けてきましたが、平成17（2005）年をピークに、その後は減少傾向となっています。

平成22（2010）年の国勢調査から平成27（2015）年の国勢調査までの5年間では、人口は23,751人減少しています。

都道府県別将来推計人口（平成25（2013）年3月推計、国立社会保障・人口問題研究所）によると、平成52（2040）年には岡山県の人口は161万985人になると予測されており、人口が減少していく傾向は今後長期的に続くものと考えられます。

(2) 年齢階級別人口

平成28（2016）年の人口を年齢3区分にしてみると、年少人口（0～14歳）は24万5,108人、生産年齢人口（15～64歳）は108万6,009人、老年人口（65歳以上）は54万9,665人で、県人口に占める割合はそれぞれ13.0%、57.7%、29.2%となっています。

全国の年齢3区分割合をみると、それぞれ12.4%、60.3%、27.3%となっており、岡山県は全国値と比べ高齢化が進んでいることがわかります。

また、平成22（2010）年の年齢3区分割合と比べると、年少人口は0.7ポイントの低下、生産年齢人口は、3.9ポイントの低下、老年人口は4.1ポイントの上昇となっています。

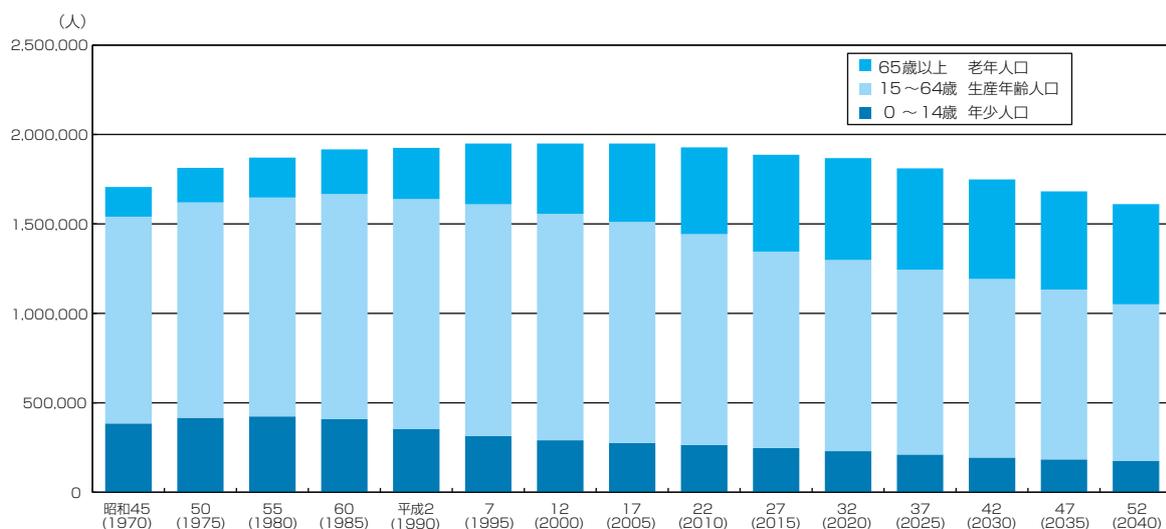
年少人口及び老年人口の割合は、平成37（2025）年にはそれぞれ11.7%、31.3%、平成52（2040）年には11.0%、34.8%と、より一層の少子化と高齢化が進むと予測されています。

(3) 世帯数

平成27（2015）年10月1日現在の本県における一般世帯数は77万1,242世帯で、一世帯当たりの人員は2.43人となっています。

世帯数は、昭和45（1970）年以降増加を続けていますが、逆に、一世帯当たりの人員は減少しています。

図表2-1-1-1 人口の推移及び年齢構成



(資料：総務省統計局「国勢調査」
国立社会保障・人口問題研究所「都道府県別将来人口推計」(平成25(2013)年3月推計))

図表2-1-1-2 平成28(2016)年保健医療圏別人口構成(平成28(2016)年10月1日現在)

二次保健医療圏	総数	0～14歳 年少人口		15～64歳 生産年齢人口		65歳以上 老年人口	
		人口(人)	構成比(%)	人口(人)	構成比(%)	人口(人)	構成比(%)
県南東部保健医療圏	920,905	118,594	13.1	540,227	59.5	249,650	27.5
県南西部保健医療圏	706,122	92,144	13.4	393,870	57.5	199,226	29.1
高梁・新見保健医療圏	61,820	6,157	10.0	31,069	50.6	24,133	39.3
真庭保健医療圏	46,315	5,456	11.8	23,386	50.6	17,417	37.7
津山・英田保健医療圏	180,239	22,757	12.7	97,457	54.3	59,239	33.0
合計	1,915,401	245,108	13.0	1,086,009	57.7	549,665	29.2
全国	126,933,000	15,780,000	12.4	76,562,000	60.3	34,591,000	27.3

(資料：総務省統計局「人口推計」、岡山県統計分析課「岡山県毎月流動人口調査」)

(注) 総数は年齢不詳を含んでいるため、年齢別人口の計とは合致しない。

(注) 構成比については、分母から年齢不詳を除いて算出している。

図表2-1-1-3 一般世帯数の推移

区 分	一般世帯数	一世帯当たりの人員
昭和45(1970)年	493,819	3.41
50(1975)年	537,829	3.32
55(1980)年	560,043	3.29
60(1985)年	582,128	3.24
平成 2(1990)年	607,668	3.11
7(1995)年	656,761	2.92
12(2000)年	689,733	2.77
17(2005)年	724,474	2.63
22(2010)年	752,878	2.52
27(2015)年	771,242	2.43

(資料：総務省統計局「国勢調査」)

図表2-1-1-4

平成27(2015)年保健医療圏別世帯数

二次保健医療圏	一般世帯数
県南東部保健医療圏	386,371
県南西部保健医療圏	274,096
高梁・新見保健医療圏	25,044
真庭保健医療圏	16,360
津山・英田保健医療圏	69,371
合 計	771,242
全 国	53,331,797

(資料：総務省統計局「平成27(2015)年国勢調査」)

(4) 平均寿命

本県における平成22(2010)年の平均寿命は、男性79.77年、女性86.93年となっており、昭和45(1970)年と比較してみると、男性9.08年、女性10.56年延びています。

また、昭和45(1970)年以降、男性、女性とも図表2-1-1-5のとおり全国値を上回っています。

図表2-1-1-5 平均寿命の推移

年 次	男 性			女 性		
	全 国	岡山県	順 位	全 国	岡山県	順 位
昭和45(1970)年	69.31	70.69	5	74.66	76.37	1
50(1975)年	71.73	72.25	7	76.89	77.76	4
55(1980)年	73.35	74.21	7	78.76	79.78	2
60(1985)年	74.78	75.28	13	80.48	81.31	5
平成 2(1990)年	75.92	76.32	16	81.90	82.70	5
7(1995)年	76.38	77.03	14	82.85	83.81	6
12(2000)年	77.72	77.80	21	84.60	85.25	6
17(2005)年	78.56	79.22	11	85.52	86.49	4
22(2010)年	79.55	79.77	15	86.30	86.93	8
27(2015)年	80.75	81.03	13	86.99	87.67	2
28(2016)年	80.98	-	-	87.14	-	-

(資料：厚生労働省「完全生命表」、「都道府県別生命表」、「平成28(2016)年簡易生命表」)

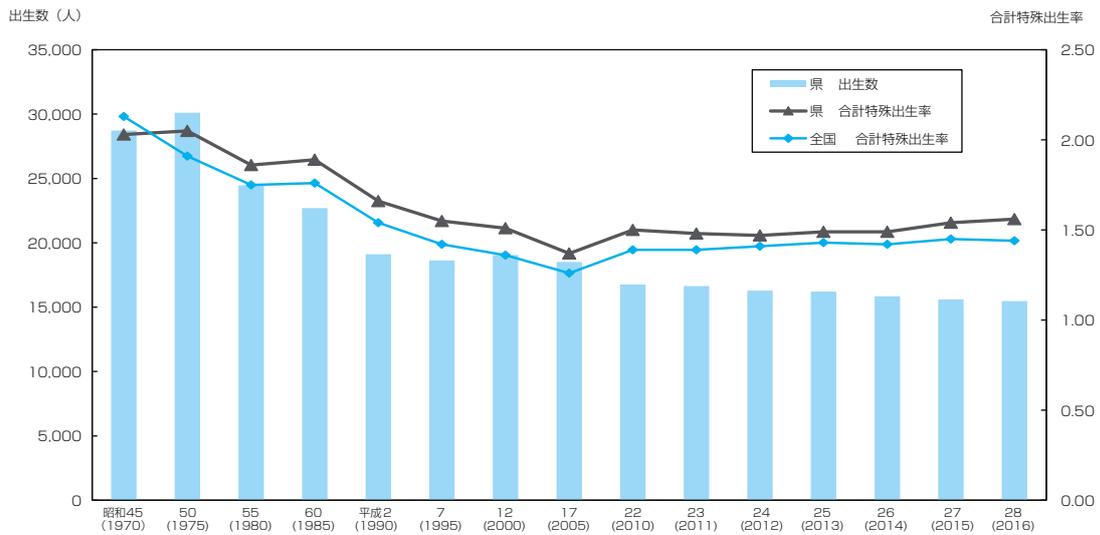
2 人口動態

(1) 出生

平成28(2016)年の出生数は1万5,477人で、年次推移をみると、昭和50(1975)年を境に減少に転じ、近年においては多少の増減はあるものの緩やかな減少傾向となっています。

また、合計特殊出生率(1人の女性が一生の間に産む子どもの数)は、平成28(2016)年では1.56(全国16位)と全国値の1.44を上回っています。

図表2-1-2-1 出生数及び合計特殊出生率の年次推移



(資料：厚生労働省「人口動態統計」)

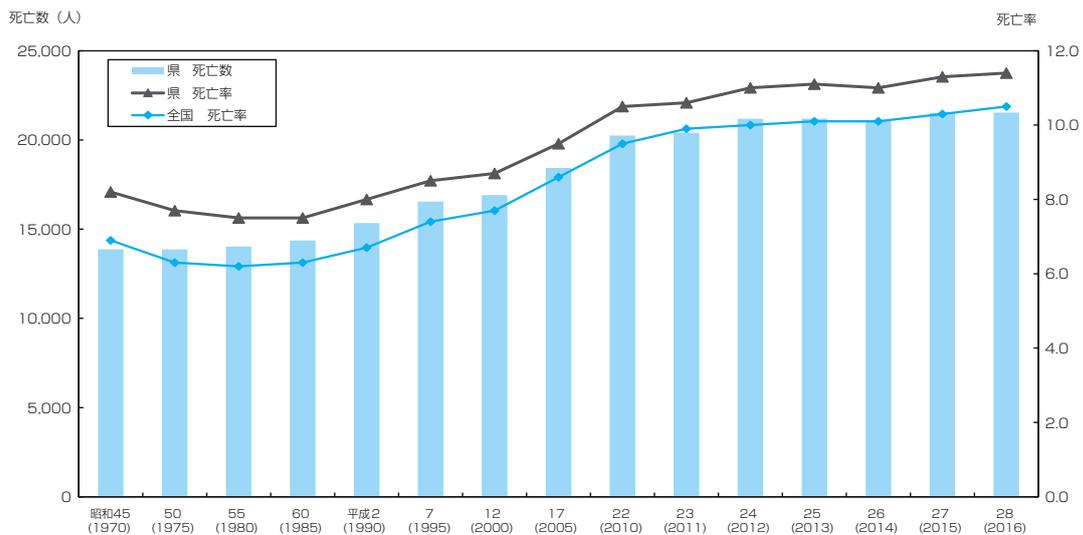
(2) 死亡

ア 死亡数と死亡率の推移

死亡数の年次推移をみると、昭和50（1975）年代半ばから、人口の高齢化を反映してゆるやかな増加傾向にあります。

平成28（2016）年の死亡数は2万1,532人、死亡率（人口千対）は11.4（全国27位）で全国値の10.5と比べ0.9ポイント高くなっています。

図表2-1-2-2 死亡数及び死亡率



(資料：厚生労働省「人口動態統計」)

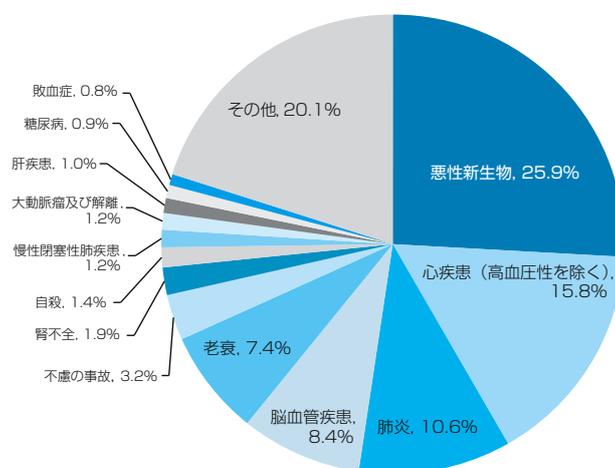
イ 主な死因別の死亡率

平成28（2016）年の主な死因別の割合をみると、図表2-1-2-3のようになっています。

主な死因別死亡率をみると、昭和57（1982）年から死亡順位の第1位になっている悪性新生物は、上昇傾向が続いており、平成28（2016）年では人口10万対で293.9（死亡数5,572人）となっています。

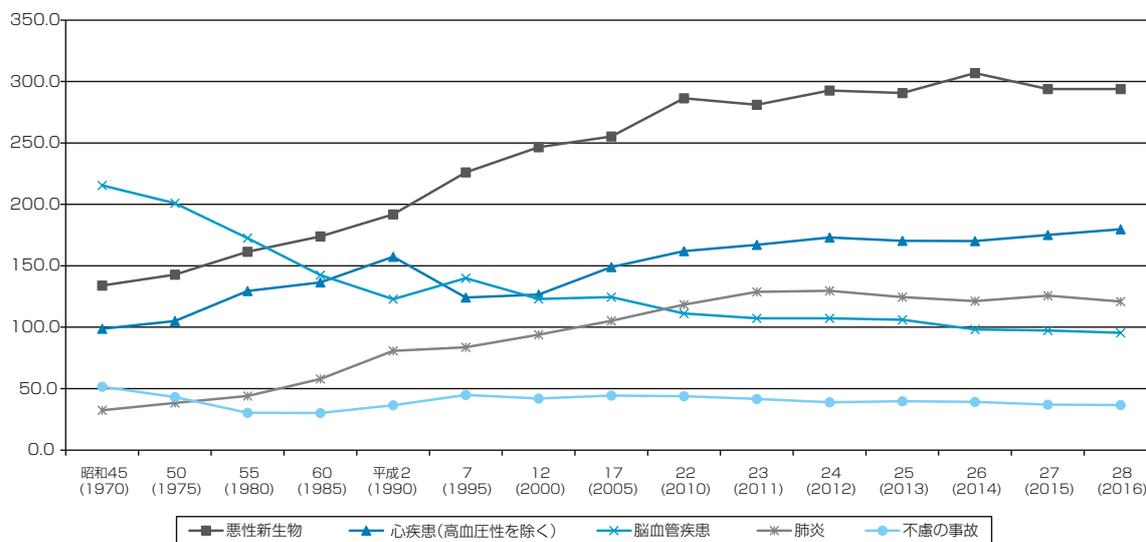
第2位は心疾患179.8（3,409人）、第3位は肺炎120.9（2,292人）で、平成21（2009）年から脳血管疾患と順位が入れ替わっています。

図表2-1-2-3 平成28（2016）年 主な死因の内訳



（資料：厚生労働省「人口動態統計」）

図表2-1-2-4 主な死因別の死亡率



（資料 厚生労働省「人口動態統計」）

ウ 標準化死亡比※

悪性新生物、心疾患及び脳血管疾患並びに悪性新生物を部位別にみた標準化死亡比は図表2-1-2-5のとおりです。平成20（2008）年～24（2012）年で見ると、県全体では肝及び肝内胆管の悪性新生物及び急性心筋梗塞で全国値を上回っています。

図表2-1-2-5 保健医療圏別の標準化死亡比（平成20（2008）年～24（2012）年）

二次保健医療圏	全死因		悪性新生物										心疾患				脳血管疾患		
	男	女	胃		大腸		肝及び肝内胆管		気管、気管支及び肺		急性心筋梗塞				男	女			
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
岡山県	97.3	94.8	93.1	90.1	87.1	93.8	77.8	78.2	105.5	108.1	99.1	86.9	91.6	93.2	121.2	118.6	99.2	96.4	
県南東部保健医療圏	岡山市	95.8	93.7	95.5	91.8	87.6	94.0	81.5	79.3	114.5	98.8	102.5	93.3	95.7	90.3	118.3	119.4	92.4	97.1
	岡山市以外	99.5	98.5	95.2	91.4	83.8	98.0	64.1	74.1	109.6	115.4	106.3	94.2	94.0	99.9	128.1	128.9	92.2	87.4
県南西部保健医療圏	倉敷市	96.2	94.7	93.6	92.1	90.0	94.7	81.2	86.8	100.2	95.7	101.5	90.0	82.8	90.4	115.0	103.8	112.8	102.4
	倉敷市以外	94.7	94.3	89.7	88.4	85.0	84.3	86.2	79.7	103.2	120.1	88.5	72.9	86.5	95.0	100.2	103.5	100.6	98.5
高梁・新見保健医療圏	96.1	92.3	86.1	82.9	85.4	90.0	64.8	70.1	91.9	110.7	84.0	72.1	99.8	99.0	161.0	151.4	83.3	86.5	
真庭保健医療圏	99.2	93.8	89.5	86.1	87.0	114.7	71.0	76.6	82.2	119.5	97.5	63.3	79.6	80.3	82.8	98.7	106.8	104.2	
津山・英田保健医療圏	103.9	95.5	92.2	87.4	87.1	93.5	74.6	67.3	102.4	126.2	97.3	86.9	100.4	97.1	151.5	138.3	103.5	94.3	

（資料：厚生労働省「平成20（2008）年～24（2012）年人口動態統計特殊報告」）

※ 標準化死亡比（SMR）

死亡率を比較する場合、高齢人口の多い市町村では死亡数が大きくなり、その結果、死亡数を人口で単純に割る死亡率の算出方法では、死亡率はおのずと高くなります。

このような人口構成の違いによる死亡率の高低を補正する方法の一つとして、「標準化死亡比（SMR）」があります。

この指標は、それぞれの地域の年齢階級別人口と全国の年齢階級別死亡率により算出されたそれぞれの地域の期待死亡数に対するその地域の実際の死亡数の比を示したものです。

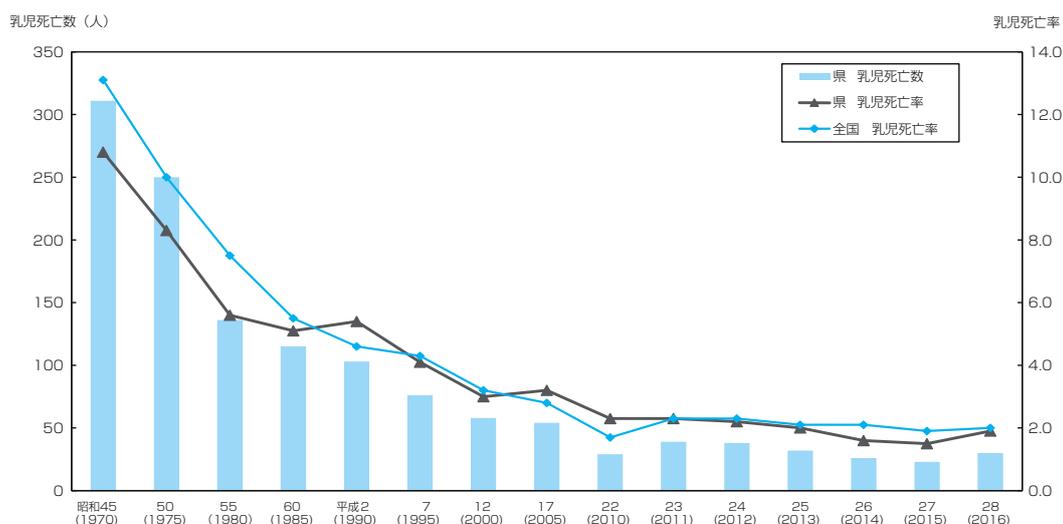
各保健医療圏のSMRが100より大きい場合は全国の死亡率より高く、100より小さい場合は全国の死亡率より低いことを示します。

（3）乳児死亡

乳児死亡（生後1年未満の死亡）数及び乳児死亡率（出生千対）並びに新生児死亡（生後28日未満の死亡）数及び新生児死亡率（出生千対）の年次推移は、図表2-1-2-6、図表2-1-2-7のとおりです。

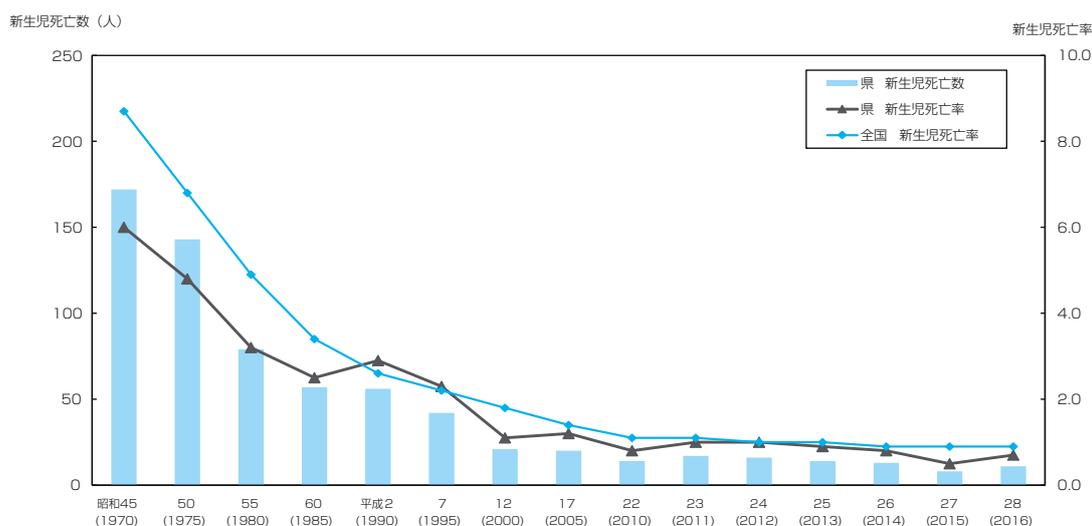
平成28（2016）年の乳児死亡数は30人、乳児死亡率は1.9（全国27位）で全国値の2.0と比べ0.1ポイント低くなっています。また、新生児死亡数は11人、新生児死亡率（出生千対）は0.7（全国35位）で全国値の0.9と比べ0.2ポイント低くなっています。

図表2-1-2-6 乳児死亡数及び乳児死亡率（出生千対）の年次推移



(資料：厚生労働省「人口動態統計」)

図表2-1-2-7 新生児死亡数及び新生児死亡率（出生千対）の年次推移



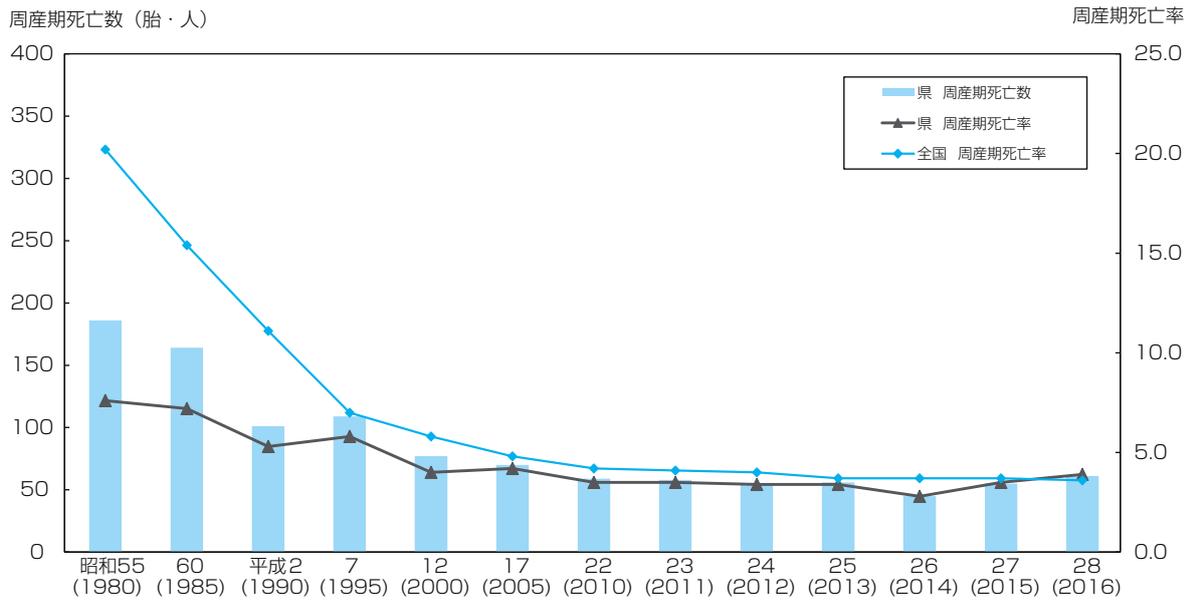
(資料：厚生労働省「人口動態統計」)

(4) 周産期死亡

周産期死亡（妊娠満22週以後の死産と生後7日未満の早期新生児死亡を合わせたもの）数及び周産期死亡率（出産（出生＋妊娠満22週以後の死産）千対）の年次推移は図表2-1-2-8のとおりで、平成12（2000）年頃までは減少傾向にありましたが、以後ほぼ横ばい傾向になっています。

平成28（2016）年の周産期死亡数は17胎・人、周産期死亡率は3.9（全国13位）で全国値の3.6と比べ、0.3ポイント高くなっています。

図表2-1-2-8 周産期死亡数及び周産期死亡率（出生千対）の年次推移



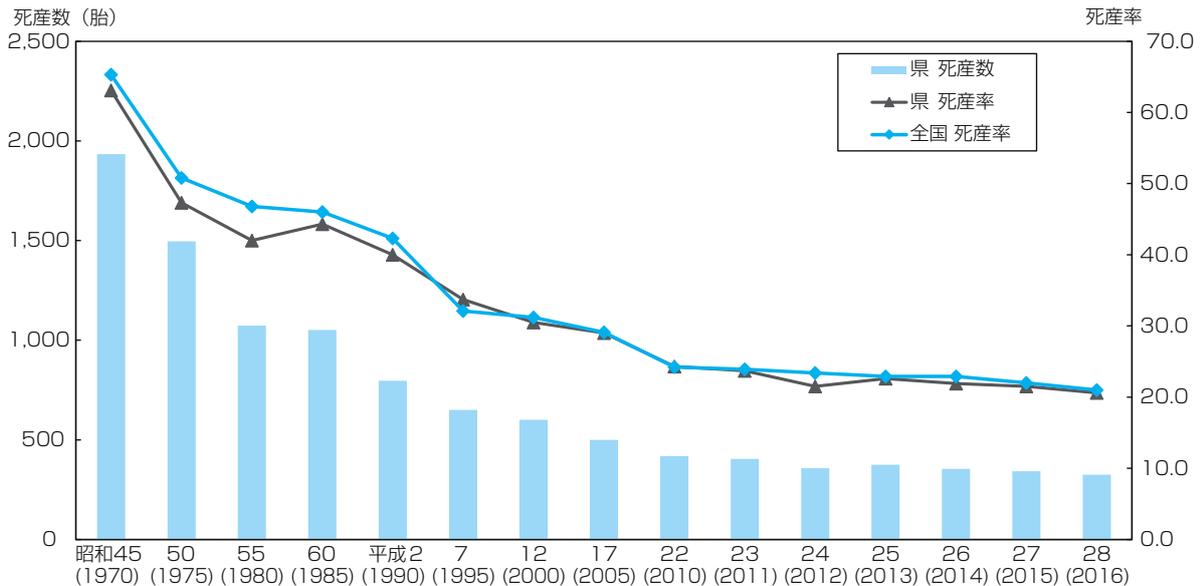
(資料：厚生労働省「人口動態統計」)

(5) 死産

死産（妊娠満12週以後の死児の出産）数及び死産率（出産（出生＋死産）千対）の年次推移は、図表2-1-2-9のとおりで、平成7（1995）年までの減少傾向と比べると、多少の増減はあるものの、以後は緩やかな減少傾向になっています。

平成28（2016）年の死産数は325胎、死産率は20.6（全国28位）で、全国値の21.0と比べ0.4ポイント低くなっています。

図表2-1-2-9 死産数及び死産率（出生千対）の年次推移



(資料：厚生労働省「人口動態統計」)

第2節 保健医療資源の状況

1 医療施設

(1) 病院

平成28（2016）年10月1日現在の本県の病院数は164施設、人口10万対では8.6施設で全国値の6.7施設を上回っています。

病院の種別では、全病院数の89.6%にあたる147施設が一般病院で、17施設が精神科病院です。

また、病床数は28,615床、人口10万対は1,494.3床で全国値の1,229.8床を上回っています。

病床の種類別では、一般病床、精神病床、結核病床の人口10万対病床数が全国値を上回っています。

図表2-2-1-1 病院施設数及び病院病床数（平成28（2016）年10月1日現在）

二次保健医療圏	病院施設数			病院病床数					
	一般病院	精神科病院		一般病床	療養病床	精神病床	結核病床	感染症病床	
県南東部 保健医療圏	78	71	7	14,666	9,742	1,708	3,127	81	8
	8.5	7.7	0.8	1,592.6	1,057.9	185.5	339.6	8.8	0.9
県南西部 保健医療圏	53	47	6	9,709	6,530	1,744	1,400	25	10
	7.5	6.7	0.8	1,375.0	924.8	247.0	198.3	3.5	1.4
高梁・新見 保健医療圏	8	7	1	988	399	349	240	-	-
	12.9	11.3	1.6	1,598.2	645.4	564.5	388.2	-	-
真庭 保健医療圏	7	6	1	797	425	172	200	-	-
	15.1	13.0	2.2	1,720.8	917.6	371.4	431.8	-	-
津山・英田 保健医療圏	18	16	2	2,455	1,129	742	546	30	8
	10.0	8.9	1.1	1,362.1	626.4	411.7	302.9	16.6	4.4
合 計	164	147	17	28,615	18,225	4,715	5,513	136	26
	8.6	7.7	0.9	1,494.3	951.7	246.2	287.9	7.1	1.4
全 国	8,442	7,380	1,062	1,561,005	891,398	328,161	334,258	5,347	1,841
	6.7	5.8	0.8	1,229.8	702.3	258.5	263.3	4.2	1.5

（資料：厚生労働省「平成28（2016）年医療施設調査」、岡山県統計分析課「岡山県毎月流動人口調査」）

（備考：上段は実数、下段は人口10万対）

(2) 一般診療所

平成28（2016）年10月1日現在の本県の一般診療所数は1,661施設、人口10万対は86.7施設で全国値の80.0施設を上回っています。

病床数は2,305床、人口10万対は120.4床で全国値の81.5床を上回っています。

(3) 歯科診療所

平成28（2016）年10月1日現在の本県の歯科診療所数は1,000施設、人口10万対は52.2施設で全国値の54.3施設を下回っています。

図表2-2-1-2 診療所施設数及び診療所病床数（平成28（2016）年10月1日現在）

二次保健医療圏	一般診療所			歯科診療所
	施設数	病床数	うち療養病床数	施設数
県南東部保健医療圏	870	1,080	202	540
	94.5	117.3	21.9	58.6
県南西部保健医療圏	515	781	117	334
	72.9	110.6	16.6	47.3
高梁・新見保健医療圏	66	63	11	25
	106.8	101.9	17.8	40.4
真庭保健医療圏	45	82	4	22
	97.2	177.0	8.6	47.5
津山・英田保健医療圏	165	299	54	79
	91.5	165.9	30.0	43.8
合計	1,661	2,305	388	1,000
	86.7	120.4	20.3	52.2
全国	101,529	103,451	9,906	68,940
	80.0	81.5	7.8	54.3

（資料：厚生労働省「平成28（2016）年医療施設調査」、岡山県統計分析課「岡山県毎月流動人口調査」）

（備考：上段は実数、下段は人口10万対）

(4) 診療科目

平成27(2015)年の県内の診療科目別にみた病院及び一般診療所数(重複計上)は図表2-2-1-3のとおりです。

図表2-2-1-3 保健医療圏別、診療科目別にみた病院及び一般診療所数(重複計上)
(平成27(2015)年10月1日現在)

区分	施設数	内	呼	循	消	腎	神	糖	血	皮	ア	リ	感	小	精	心	外	呼	心	乳	気	消	
		科	吸	環	化	臓	経	尿	液	膚	レ	ウ	染	児	神	療	科	器	臟	腺	管	化	
		器	器	器	器	内	内	病	内	科	ル	マ	症	科	科	内	科	外	血	食	器	器	
		内	器	器	器	内	内	病	内	科	ル	マ	症	科	科	内	科	外	血	食	器	器	
病院	県南東部保健医療圏	77	67	20	32	32	9	19	7	2	31	6	10	-	21	27	10	46	5	10	5	1	16
	県南西部保健医療圏	53	48	20	25	25	5	17	6	4	24	5	9	-	22	14	3	36	5	4	5	1	15
	高梁・新見保健医療圏	9	7	1	4	2	1	1	2	1	4	-	3	-	2	2	2	5	1	-	-	-	2
	真庭保健医療圏	7	6	4	3	3	1	2	3	1	4	2	2	-	1	1	-	6	-	1	1	-	3
	津山・英田保健医療圏	18	16	4	6	7	2	3	3	1	4	-	-	1	6	3	2	10	2	4	1	-	3
	合計	164	144	49	70	69	18	42	21	9	67	13	24	1	52	47	17	103	13	19	12	2	39
一般診療所	県南東部保健医療圏	871	564	100	109	173	19	26	31	6	94	73	46	4	206	66	51	115	1	1	4	1	16
	県南西部保健医療圏	512	333	52	61	101	6	13	11	2	44	47	26	1	133	28	21	63	-	-	-	3	14
	高梁・新見保健医療圏	65	59	1	1	4	2	1	1	-	2	1	1	1	18	3	1	11	-	-	-	-	-
	真庭保健医療圏	45	37	4	7	9	-	-	2	-	3	-	2	-	7	-	-	13	-	-	-	-	-
	津山・英田保健医療圏	166	126	14	20	23	3	4	4	1	10	6	4	-	32	9	5	18	-	-	-	1	-
	合計	1,659	1,119	171	198	310	30	44	49	9	153	127	79	6	396	106	78	220	1	1	4	5	30

区分	泌尿器科	肛	脳	整	形	美	眼	耳	小	産	産	婦	リ	放	麻	病	臨	救	歯	矯	小	歯	
		門	神	形	成	容	科	鼻	児	婦	人	人	ハ	射	酔	理	床	急	科	正	児	科	
	科	外	経	外	外	外	科	い	外	科	科	ビ	線	科	診	検	科	科	歯	歯	科	科	
	科	科	科	科	科	科	ん	ん	科	科	科	ビ	線	科	断	査	科	科	科	科	科	科	
病院	県南東部保健医療圏	27	10	24	44	15	2	28	17	2	11	2	12	50	34	35	9	3	6	19	1	2	1
	県南西部保健医療圏	19	13	21	34	10	4	17	16	3	8	1	6	35	30	25	3	2	3	16	3	2	5
	高梁・新見保健医療圏	3	1	3	6	1	-	3	3	-	-	-	2	6	5	2	-	-	1	-	-	-	-
	真庭保健医療圏	2	4	4	6	1	-	4	1	-	1	-	2	5	3	4	-	-	-	-	-	-	-
	津山・英田保健医療圏	4	1	6	8	2	-	3	5	1	2	-	-	11	9	3	1	-	1	3	-	-	1
	合計	55	29	58	98	29	6	55	42	6	22	3	22	107	81	69	13	5	10	39	4	4	7
一般診療所	県南東部保健医療圏	30	18	12	112	13	11	63	56	2	25	1	14	151	86	21	-	1	-	22	2	3	3
	県南西部保健医療圏	24	10	7	65	4	3	43	36	1	14	3	4	95	42	9	-	-	6	-	1	-	
	高梁・新見保健医療圏	-	-	1	1	-	-	3	2	1	2	-	1	2	4	-	-	-	4	1	-	-	1
	真庭保健医療圏	2	3	3	9	1	1	3	3	1	-	-	-	6	1	-	-	-	1	-	-	-	-
	津山・英田保健医療圏	2	2	3	18	2	-	10	5	-	5	-	-	11	2	7	-	-	2	-	1	-	-
	合計	58	33	26	205	20	15	122	102	5	46	4	19	265	135	37	-	1	-	35	3	5	4

(資料：厚生労働省「平成27(2015)年医療施設調査」)

2 保健関係施設

(1) 市町村保健センター

市町村保健センターは、全県で65か所設置されており、市町村が設置する地域保健活動の拠点施設として位置付けられており、生活習慣病対策や母子保健事業等の対人保健サービスを行っています。

図表2-2-2-1 市町村保健センター設置数（平成29（2017）年4月1日現在）

保健医療圏	県南東部	県南西部	高梁・新見	真 庭	津山・英田	計
市町村保健センター	15	15	9	8	18	65

（資料：岡山県保健福祉課）

(2) 保健所

保健所は、県内に県保健所が5か所、政令指定都市である岡山市及び中核市である倉敷市に市保健所がそれぞれ1か所設置されています。

保健所では、感染症対策、精神保健、難病など広域的で専門的な対人保健サービスや、医薬、食品衛生、生活衛生施策などを行っています。また、これらに加え、市保健所では、母子健康相談、一般栄養相談、乳幼児健康診査、歯科相談なども行っています。

図表2-2-2-2 保健所設置数（平成29（2017）年4月1日現在）

保健医療圏	県南東部	県南西部	高梁・新見	真 庭	津山・英田	計
県 保 健 所	1	1	1	1	1	5
市 保 健 所	1	1	0	0	0	2

（資料：岡山県保健福祉課）

(3) その他の施設

名 称	施 設 の 概 要
岡山県精神保健福祉センター 岡山市こころの健康センター	精神保健及び精神障害のある人の福祉に関する総合的な技術的中核機関として、知識の普及、調査研究や相談指導事業を行うとともに、保健所等に対する技術支援を行っています。
岡山県環境保健センター	試験研究・検査業務の技術的中核機関として、保健衛生、環境行政上必要となる検査や、調査研究を行うほか、保健所等の技術職員に対する研修指導も行っています。
岡山県南部健康づくりセンター	健康づくりの専門的な拠点施設として主に生活習慣病のリスク保有者、生活習慣病患者、高齢者等を対象にメディカルチェック、ヘルスチェックを行い、センター内の設備を使って専門的な健康づくり指導を行っています。
岡山県動物愛護センター	動物行政の拠点施設として、狂犬病予防業務や動物取扱業者等の指導を行うとともに、犬のしつけ方教室や動物ふれあい教室、譲渡事業等も実施し、動物愛護思想の普及啓発を行っています。

3 保健医療従事者

(1) 医師、歯科医師、薬剤師

平成26（2014）年12月31日現在の本県の医師・歯科医師・薬剤師数は図表2-2-3-1のとおりです。人口10万対のそれぞれの人数を全国値と比較してみると、医師・歯科医師は299.4人と89.1人で全国値を上回っていますが、薬剤師は204.6人で、全国値を下回っています。

図表2-2-3-1 医師、歯科医師、薬剤師数（登録者数）（平成26（2014）年12月31日現在）

二次保健医療圏	医師	歯科医師	薬剤師
県南東部保健医療圏	3,190	1,063	2,251
	347.2	115.7	245.0
県南西部保健医療圏	2,012	479	1,194
	283.2	67.4	168.0
高梁・新見保健医療圏	99	37	105
	152.7	57.1	162.0
真庭保健医療圏	76	26	70
	160.6	54.9	147.9
津山・英田保健医療圏	383	110	317
	209.1	60.0	173.0
合 計	5,760	1,715	3,937
	299.4	89.1	204.6
全 国	311,205	103,972	288,151
	244.9	81.8	226.7

（資料：厚生労働省「平成26（2014）年医師・歯科医師・薬剤師調査」、岡山県統計分析課「岡山県毎月流動人口調査」）
（備考：上段は実数、下段は人口10万対）

(2) 保健師、助産師、看護師、准看護師

平成28（2016）年12月31日現在の本県の保健師、助産師、看護師、准看護師数は図表2-2-3-2のとおりです。人口10万対のそれぞれの人数を全国値と比較してみると、保健師数と看護師数が全国値を上回っています。

図表2-2-3-2 保健師、助産師、看護師、准看護師数（従事者数）（平成28（2016）年12月31日現在）

二次保健医療圏	保健師	助産師	看護師	准看護師
県南東部保健医療圏	437	273	11,616	2,128
	47.5	29.6	1,261.4	231.1
県南西部保健医療圏	297	193	7,874	1,818
	42.1	27.3	1,115.1	257.5
高梁・新見保健医療圏	69	10	574	264
	111.6	16.2	928.5	427.0
真庭保健医療圏	49	12	546	121
	105.8	25.9	1,178.9	261.3
津山・英田保健医療圏	122	29	1,953	497
	67.7	16.1	1,083.6	275.7
合 計	974	517	22,563	4,828
	50.9	27.0	1,178.0	252.1
全 国	51,280	35,774	1,149,397	323,111
	40.4	28.2	905.5	254.6

（資料：衛生行政報告例、岡山県統計分析課「岡山県毎月流動人口調査」）
（備考：上段は実数、下段は人口10万対）

第3節 受療の状況

1 県内の患者数及び受療率

(1) 推移

県内の推計患者数（「患者調査」の調査日1日当たり）の推移をみると、平成23（2011）年時点に比べ平成26（2014）年では入院患者が1.5千人の減、外来患者が15.3千人の減となっています。

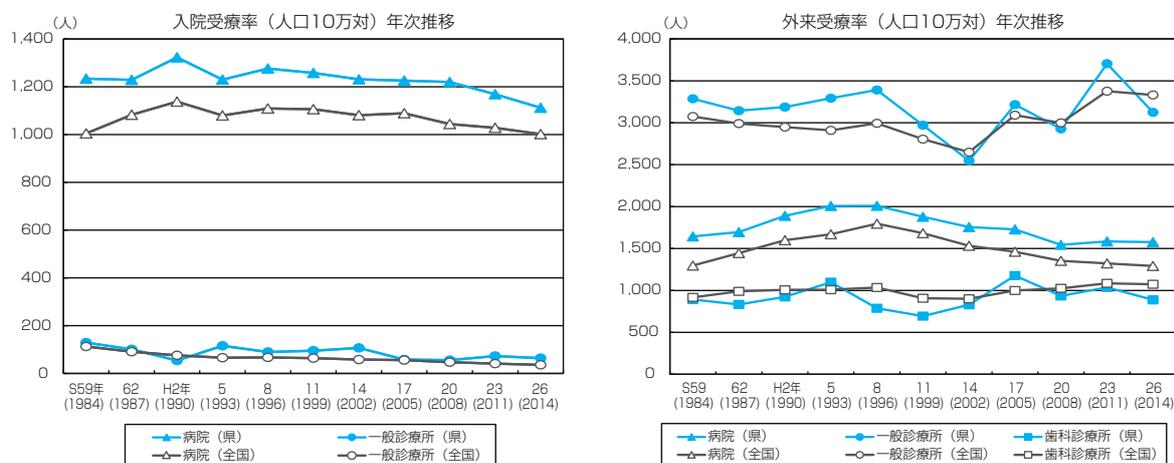
図表2-3-1-1 県内推計患者数の推移 (単位：千人)

	入院			外来			
	総数	病院	一般診療所	総数	病院	一般診療所	歯科診療所
昭和59(1984)年	25.9	23.5	2.5	110.7	31.3	62.5	16.9
62(1987)年	25.6	23.7	2.0	109.3	32.7	60.6	16.0
平成 2(1990)年	26.5	25.5	1.0	115.6	36.4	61.4	17.8
5(1993)年	26.1	23.8	2.2	123.8	38.9	63.8	21.2
8(1996)年	26.7	24.9	1.8	120.8	39.2	66.2	15.4
11(1999)年	26.5	24.7	1.9	108.6	36.8	58.2	13.6
14(2002)年	26.1	24.0	2.1	100.2	34.3	49.7	16.2
17(2005)年	25.1	24.0	1.1	119.8	33.8	63.0	23.0
20(2008)年	24.8	23.8	1.1	105.3	30.1	57.0	18.2
23(2011)年	24.1	22.7	1.4	122.8	30.8	71.9	20.1
26(2014)年	22.6	21.4	1.2	107.5	30.3	60.1	17.1

(資料：厚生労働省「患者調査」)

全国と本県の入院、外来の受療率（人口10万人に対する推計患者数）の推移をみると、本県の受療率は、病院においては入院受療率、外来受療率とも、全国値を上回っています。

図表2-3-1-2 受療率の推移



(資料：厚生労働省「患者調査」)

(2) 傷病分類別の受療率及び患者数

平成26（2014）年調査による全国及び県内の患者の受療率（人口10万対）及び県内の推計患者数を傷病の種類別に示すと図表2-3-1-3のとおりです。

図表2-3-1-3 傷病分類別の受療率と推計患者数

(単位：患者数は人、受療率は人口10万対)

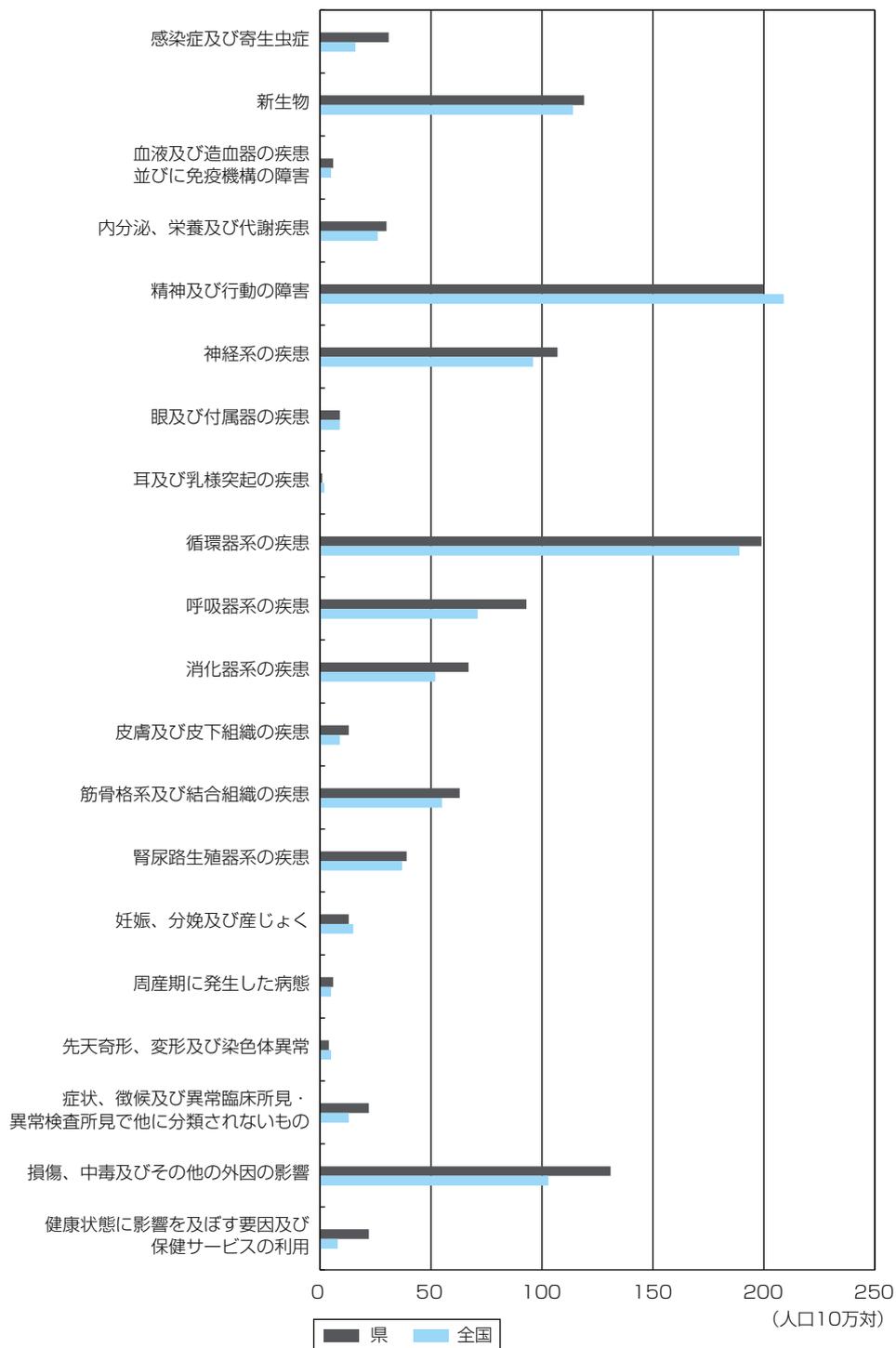
傷病分類	全国受療率		県内受療率		県内推計患者数	
	入院	外来	入院	外来	入院	外来
総数	1,038	5,696	1,176	5,588	22,600	107,500
・感染症及び寄生虫症	16	136	31	127	600	2,400
腸管感染症 (再掲)	3	24	5	26	100	500
結核 (再掲)	3	1	3	1	100	0
皮膚及び粘膜の病変を伴うウイルス疾患 (再掲)	1	46	2	29	0	600
真菌症 (再掲)	1	27	1	24	0	500
・新生物	114	182	119	180	2,300	3,500
悪性新生物 (再掲)	102	135	107	140	2,100	2,700
胃の悪性新生物 (再掲)	11	15	12	17	200	300
結腸及び直腸の悪性新生物 (再掲)	15	22	15	31	300	600
気管、気管支及び肺の悪性新生物 (再掲)	15	13	19	12	400	200
・血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	5	17	6	25	100	500
・内分泌、栄養及び代謝疾患	26	344	30	347	600	6,700
甲状腺障害 (再掲)	1	31	0	21	0	400
糖尿病 (再掲)	16	175	20	189	400	3,600
・精神及び行動の障害	209	203	200	267	3,800	5,100
統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害 (再掲)	130	55	117	67	2,300	1,300
気分〔感情〕障害躁うつ病を含む (再掲)	23	66	24	79	500	1,500
神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害 (再掲)	4	42	5	59	100	1,100
・神経系の疾患	96	136	107	114	2,100	2,200
・眼及び付属器の疾患	9	266	9	237	200	4,600
白内障 (再掲)	6	61	6	51	100	1,000
・耳及び乳様突起の疾患	2	79	1	93	0	1,800
・循環器系の疾患	189	734	199	774	3,800	14,900
高血圧性疾患 (再掲)	5	528	5	498	100	9,600
心疾患（高血圧性のものを除く） (再掲)	47	105	60	154	1,200	3,000
虚血性心疾患 (再掲)	12	47	11	64	200	1,200
脳血管疾患 (再掲)	125	74	117	68	2,300	1,300
・呼吸器系の疾患	71	526	93	562	1,800	10,800
急性上気道感染症 (再掲)	1	195	1	207	0	4,000
肺炎 (再掲)	27	6	34	4	700	100
急性気管支炎及び急性細気管支炎 (再掲)	2	80	2	73	0	1,400
気管支炎及び慢性閉塞性肺疾患 (再掲)	7	25	5	32	100	600
喘息 (再掲)	3	100	4	103	100	2,000
・消化器系の疾患	52	1,031	67	1,016	1,300	19,500
う蝕 (再掲)	0	223	-	235	0	4,500
歯肉炎及び歯周疾患 (再掲)	0	350	-	320	0	6,200
胃潰瘍及び十二指腸潰瘍 (再掲)	3	24	5	14	100	300
胃炎及び十二指腸炎 (再掲)	0	58	1	65	0	1,300
肝疾患 (再掲)	6	26	9	53	200	1,000
・皮膚及び皮下組織の疾患	9	226	13	151	300	2,900
・筋骨格系及び結合組織の疾患	55	691	63	616	1,200	11,900
炎症性多発性関節障害 (再掲)	4	39	5	36	100	700
関節症 (再掲)	12	153	16	160	300	3,100
脊柱障害 (再掲)	21	358	21	297	400	5,700
骨の密度及び構造の障害 (再掲)	2	44	2	26	0	500
・腎尿路生殖器系の疾患	37	223	39	223	700	4,300
糸球体疾患、腎尿管間質性疾患及び腎不全 (再掲)	26	93	27	124	500	2,400
前立腺肥大症 (再掲)	1	27	1	17	0	300
乳房及び女性生殖器の疾患 (再掲)	2	63	2	57	0	1,100
・妊娠、分娩及び産じょく	15	11	13	11	300	200
妊娠高血圧症候群 (再掲)	0	0	1	0	0	0
・周産期に発生した病態	5	2	6	3	100	0
・先天奇形、変形及び染色体異常	5	11	4	6	100	100
・症状、徴候及び異常臨床所見：異常検査所見で他に分類されないもの	13	61	22	74	400	1,400
・損傷、中毒及びその他の外因の影響	103	241	131	261	2,500	5,000
骨折 (再掲)	72	72	88	64	1,700	1,200
・健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	8	576	22	500	400	9,600
歯の補てつ (再掲)	0	241	-	192	0	3,700

(資料：厚生労働省「平成26（2014）年患者調査」)

ア 入院受療率

人口10万人当たりの傷病分類別の入院受療率（全国、県）の状況は図表2-3-1-4のとおりです。「精神及び行動の障害」「循環器系の疾患」の受療率が高く、全国と比較した場合、ほとんどの疾病で全国値を上回っています。

図表2-3-1-4 入院受療率

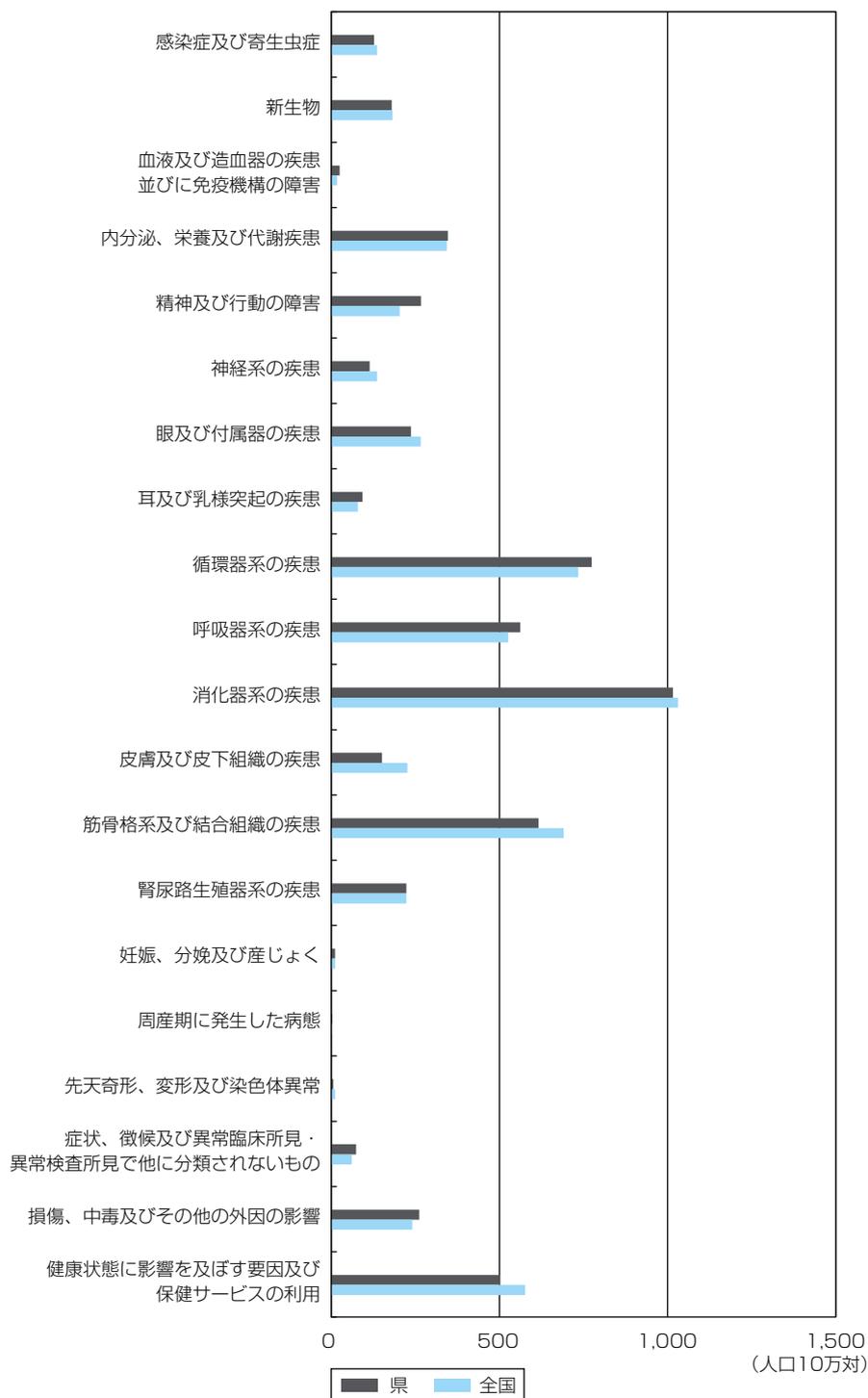


(資料：厚生労働省「平成26（2014）年患者調査」)

イ 外来受療率

人口10万人当たりの傷病分類別の外来受療率（全国、県）の状況は図表2-3-1-5のとおりです。「消化器系の疾患」（歯科含む）や「循環器系の疾患」が全国同様高くなっています。

図表2-3-1-5 外来受療率

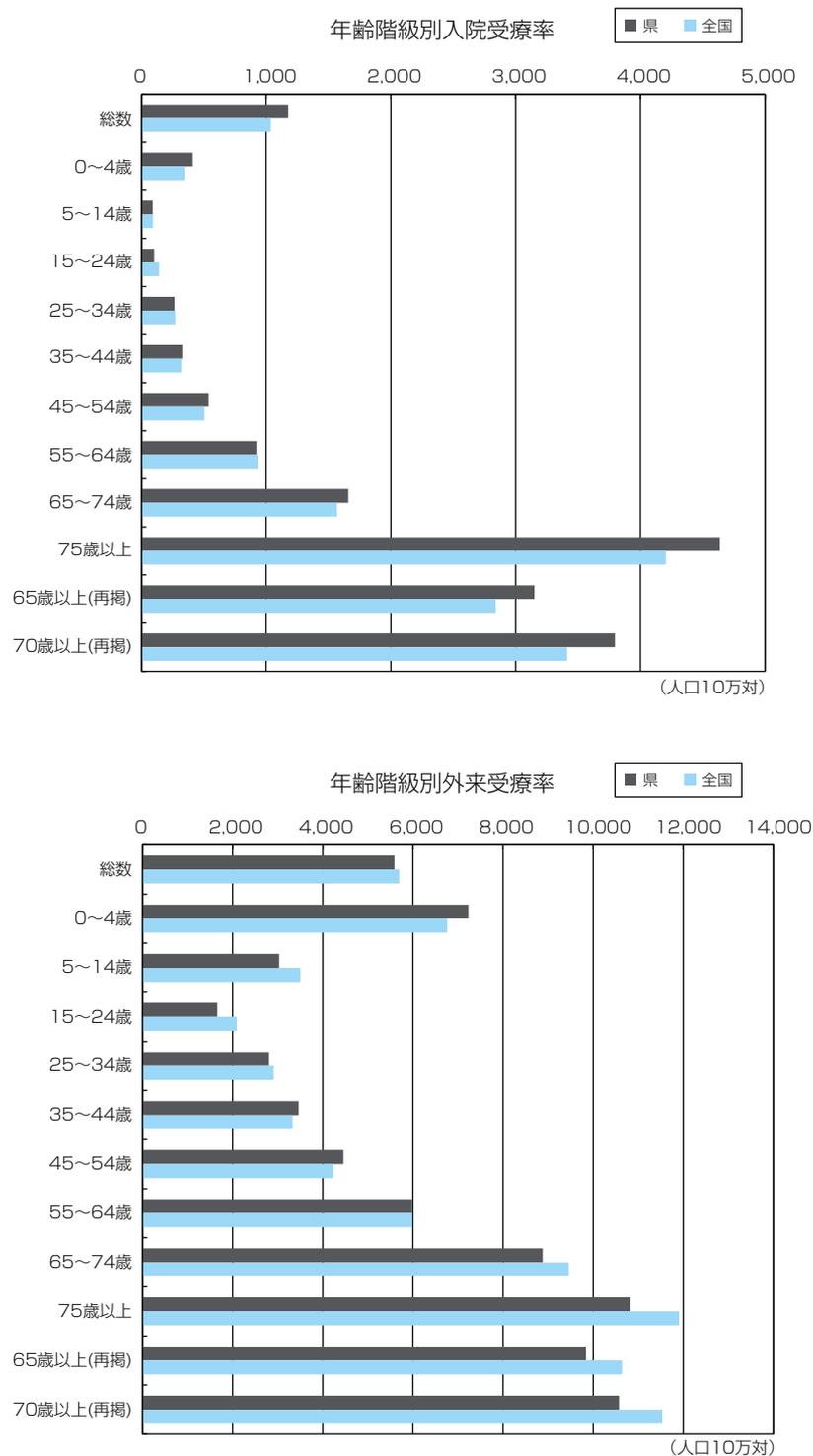


(資料：厚生労働省「平成26（2014）年患者調査」)

(3) 年齢階級別の受療率

県内の受療率を年齢階級別にみると、入院では5～14歳で最も低くなり、以降年齢が高くなるほど受療率も高くなっています。また、外来では、乳幼児期の受療率が高く、15～24歳で最も低くなり、以降年齢が高くなるほど受療率も高くなっています。

図表2-3-1-6 年齢階級別の受療率



(資料：厚生労働省「平成26（2014）年患者調査」)

2 地域別の受療動向（入院患者）

県内の病院（一般病床、療養病床）等に入院している患者の住所地別に、どこの保健医療圏で受療しているかを示す割合は、図表2-3-2-1のとおりです。

平成29（2017）年調査では、県南の2保健医療圏において自圏内での受療がともに90%を超えていますが、津山・英田で83.77%、真庭で75.32%、最も低い高梁・新見では63.28%となっており、県北から県南への患者の流出が見られます。

図表2-3-2-1 入院患者の受療動向（一般病床及び療養病床）

平成29（2017）年 （単位：％）

受療地 \ 住所地	県南東部	県南西部	高梁・新見	真庭	津山・英田	県外
県南東部保健医療圏	92.43	5.73	12.66	11.87	11.79	58.81
県南西部保健医療圏	6.82	94.08	19.32	4.43	2.40	35.98
高梁・新見保健医療圏	0.40	0.09	63.28	1.11	0.00	0.62
真庭保健医療圏	0.07	0.05	4.52	75.32	2.05	0.62
津山・英田保健医療圏	0.27	0.05	0.23	7.28	83.77	3.97
計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

（資料：岡山県医療推進課調べ（平成29(2017)年1月18日時点））

平成27（2015）年 （単位：％）

受療地 \ 住所地	県南東部	県南西部	高梁・新見	真庭	津山・英田	県外
県南東部保健医療圏	90.26	5.79	12.95	14.58	11.85	59.07
県南西部保健医療圏	8.27	94.03	20.81	6.25	3.00	36.27
高梁・新見保健医療圏	0.48	0.15	62.31	0.57	0.05	0.93
真庭保健医療圏	0.12	0.00	3.70	72.92	1.74	0.53
津山・英田保健医療圏	0.86	0.03	0.23	5.68	83.36	3.20
計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

（資料：岡山県医療推進課調べ（平成27(2015)年5月13日時点））

（注）住所不詳を除く。

単位未満を四捨五入しているため、計と内訳の和が一致しない場合がある。

3 地域別の病床利用率・平均在院日数

平成28（2016）年の病床利用率及び平均在院日数は図表2-3-3-1のとおりです。

都道府県別に病床利用率を見ると図表2-3-3-2のとおりで、岡山県の73.8%に対し、全国が80.1%となっています。

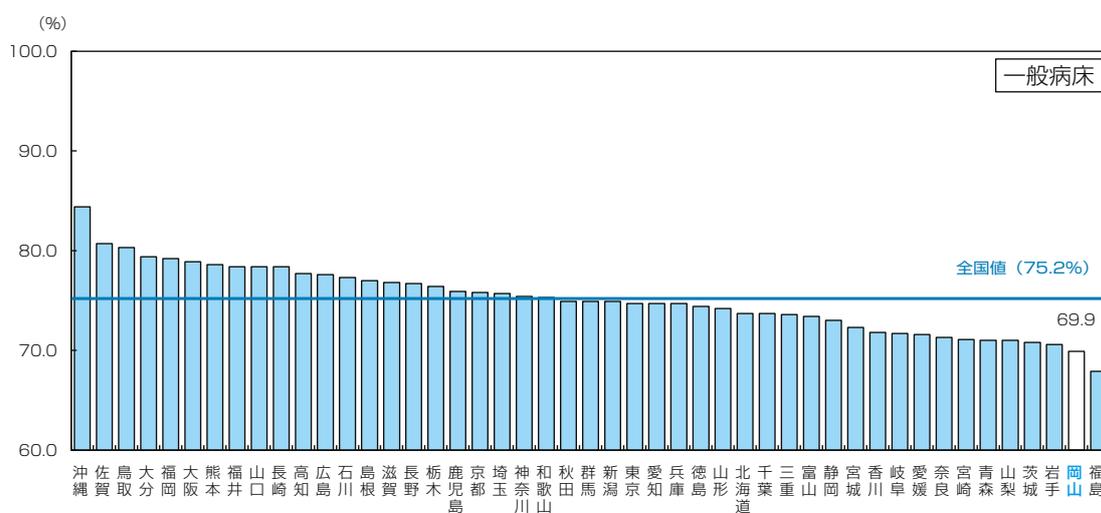
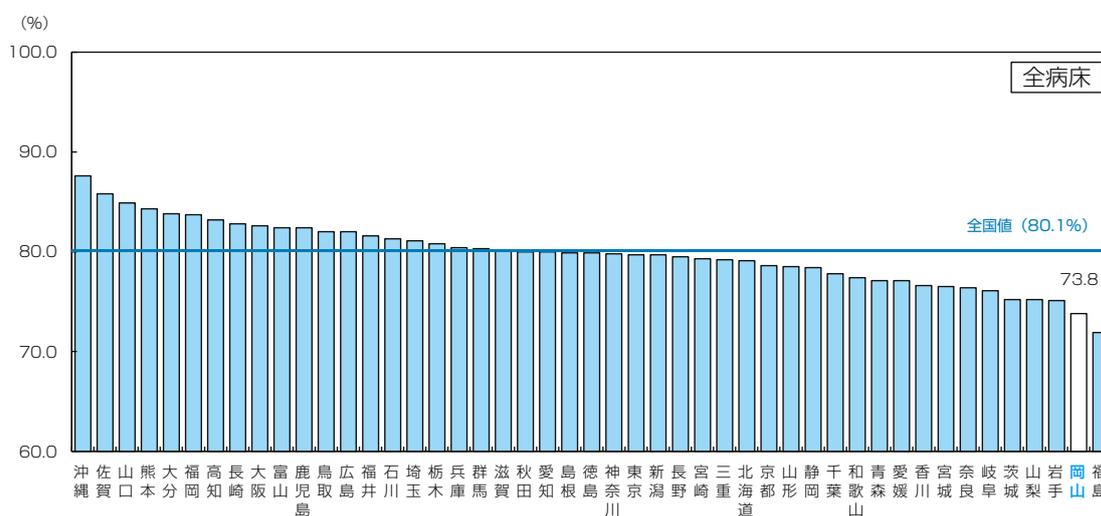
都道府県別に平均在院日数を見ると図表2-3-3-3のとおりで、全病床では岡山県の27.0日に対し全国が28.5日となっています。

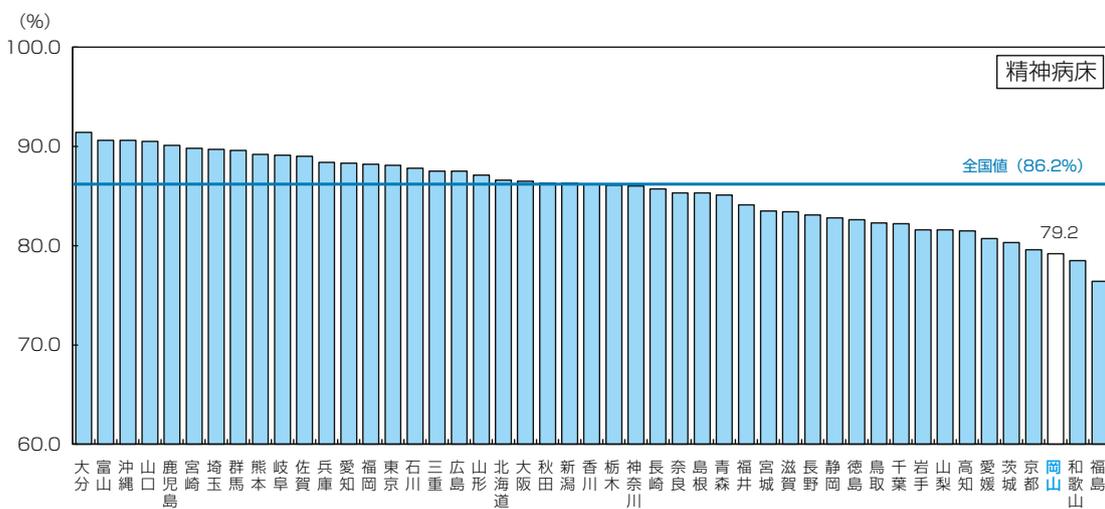
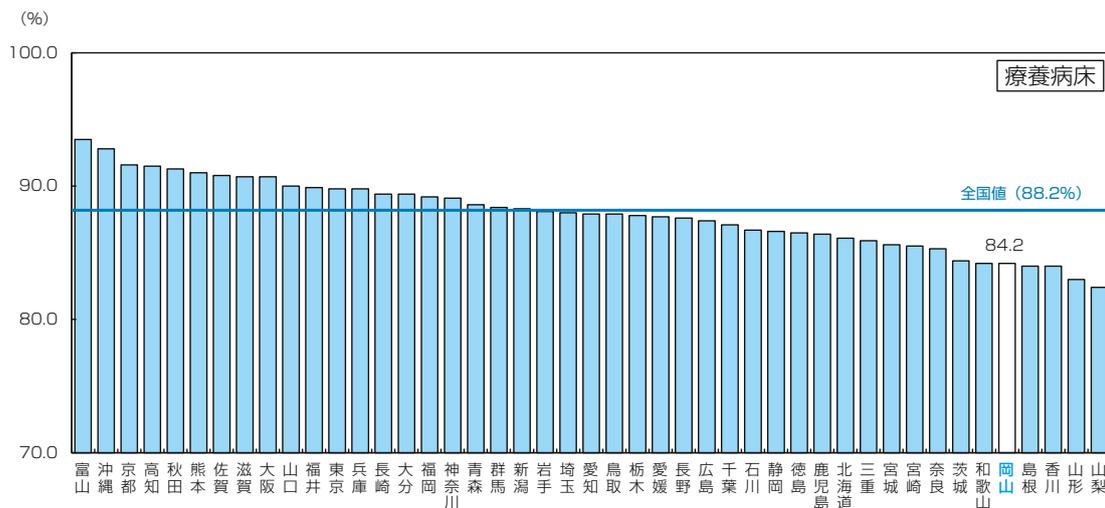
図表2-3-3-1 平成28（2016）年の病床利用率及び平均在院日数の状況

二次保健医療圏	病床利用率 (%)				平均在院日数 (日)			
	総数	一般病床	療養病床	精神病床	総数	一般病床	療養病床	精神病床
県南東部保健医療圏	69.6	65.1	84.5		26.4	17.3	126.2	
県南西部保健医療圏	76.5	73.7	85.2		25.2	17.0	119.4	
高梁・新見保健医療圏	82.3	82.6	74.0		44.6	20.4	111.0	
真庭保健医療圏	73.1	68.5	82.5		31.6	17.5	80.4	
津山・英田保健医療圏	84.8	84.4	86.5		32.8	16.6	107.6	
岡山県	73.8	69.9	84.2	79.2	27.0	17.2	117.0	227.2
全国	80.1	75.2	88.2	86.2	28.5	16.2	152.2	269.9

(資料：厚生労働省「平成28（2016）年病院報告」)

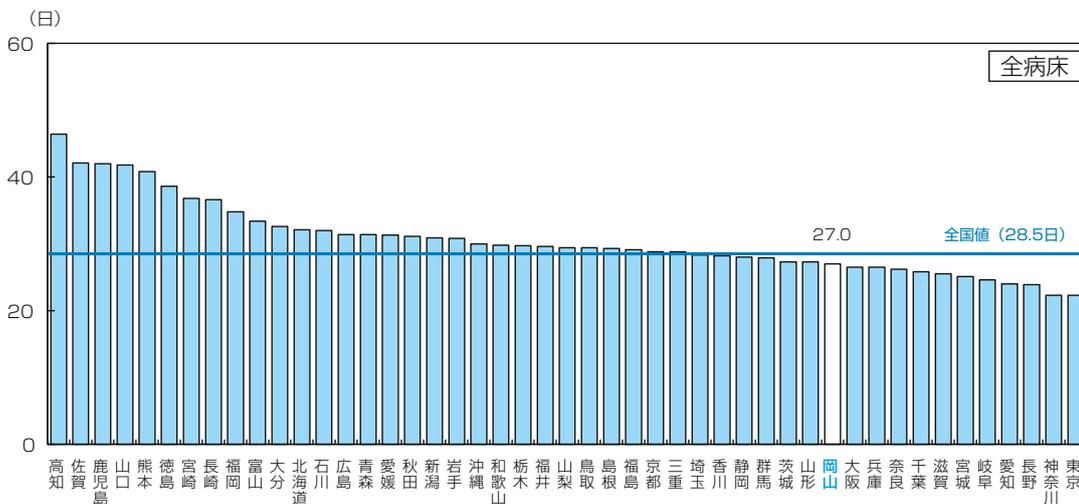
図表2-3-3-2 都道府県別病床利用率

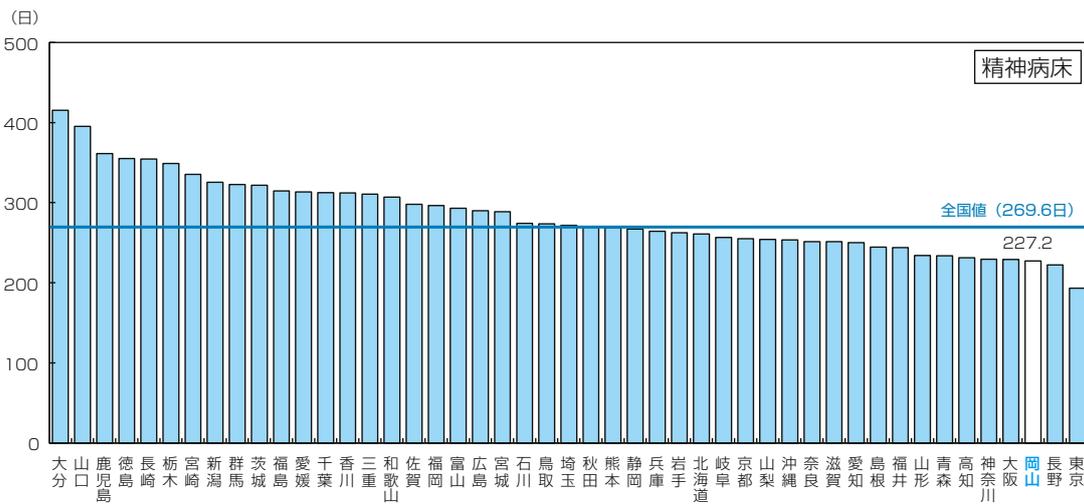
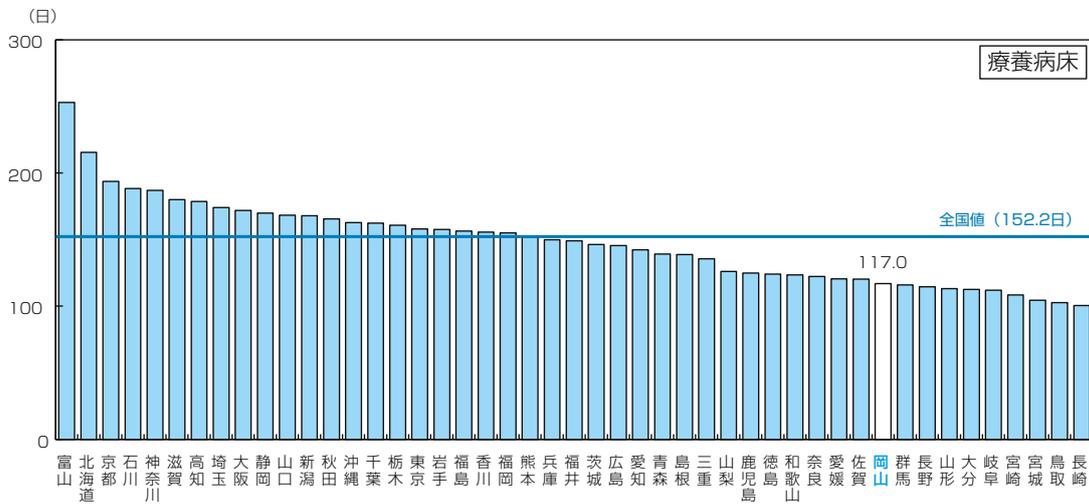
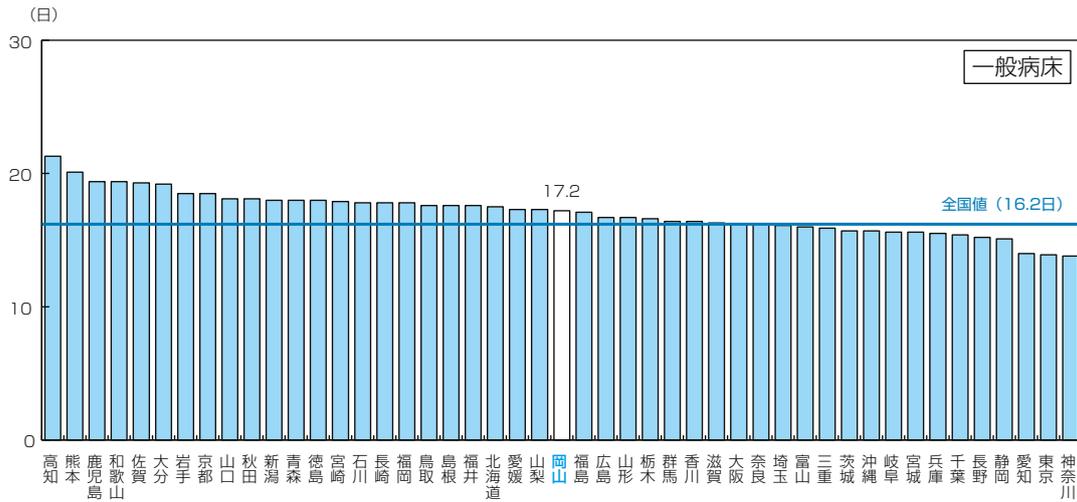




(資料：厚生労働省「平成28(2016)年病院報告」)

図表2-3-3-3 都道府県別平均在院日数





(資料：厚生労働省「平成28 (2016) 年病院報告」)